



大楽毛小学校 【児童数 259名（平成28年5月現在）／指定日 平成27年3月31日】

目指す子供像：生き生き(自己肯定感、自信、活動意欲、思いやり)と学ぶ子ども

地域が一体となった防災教育

～日常的に防災意識を高める取り組みの推進～



「津波てんでんこ」で学校から1.2km離れた釧路新道まで避難

大楽毛小学校の校舎は津波避難場所となっていました。巨大津波に対して高さ不足との指摘を受けました。町内会・釧路市との協議を重ねた結果、学校から1.2km離れた釧路新道を避難場所とすることになりました。

このため、学校運営協議会の協議を経て、学校・町内会主催で児童全員が「非常持ち出し袋」を背負い、てんでんこ（一人でも多くの命が助かるために並んで避難するのではなく、ばらばらに逃げる）で避難する訓練を行っています。

また、消防署や高等専門学校の協力を得ながら地域が一体となった「防災教室」を実施しています。

CS 関係者の声

大楽毛地区には、長年培ってきた学校・家庭・地域の協力的な関係に基づいて、大楽毛小学校の子どもたちを地域全体で育てていこうとする風土があります。

CS協議会により、学校と地域が一体となった「防災」の取組として多くの参加の呼びかけや安全面の確保等を進めています。



大楽毛小学校
コミュニティ・スクール協議会
会長 広羽 元 さん



大楽毛中学校 【生徒数 201名（平成28年5月現在）／指定日 平成29年3月31日】

目指す子供像：主体的に行動し、自ら学ぶ意欲に満ちた心豊かな生徒

地域と共に何が出来るかを考え行動する

～主体的に行動し、自ら学ぶ意欲に満ちた心豊かな生徒～



生徒会書記局の呼びかけで「ボランティア地域清掃」を実施

大楽毛地域の大きな課題として、「防災」という視点があります。大楽毛中学校では、学校を地域の避難施設として活用できるようにし、学校と家庭・地域が一体となった安全・安心な学校づくり・地域づくりの推進を目指しています。校区にある大楽毛小学校は、平成27年度よりCSに指定され、地域と共に様々な活動を行っており、その活動を中学校でどのようにつなげるのか、地域から支援を受ける立場から一歩進めて、中学生が地域の一員としてどのように関わっていくことができるのかをCSとして協議しています。

CS 関係者の声

CSの活動を通して、現在の生徒の様子を見ることができ、生徒の心身の成長や先生方の指導の成果を感じています。

小学校時代よりも個人差が顕著に開き、多感な中学生の出口を見据えた指導をしている学校が、家庭との連携だけでなく、地域を巻き込んで子供を育てようとするCSの試みは、花火のように派手ではありませんが、地に足がついた活動と言えるものです。



大楽毛中学校
コミュニティ・スクール協議会
会長 松野 孝 さん



共栄小学校 【児童数 298名（平成28年5月現在）／指定日 平成28年3月31日】

目指す子供像：共につながり、思いやりとたくましさを育むコミュニティ・スクール

思いやりの心を育む体験活動

～学校・家庭・地域が一体となった学校づくり～



保護者、地域の方、児童が互いに声をかけ合いふれあう

共栄小学校は、平成26年4月にコミュニティ・スクール調査研究校として取組を始めて以降、地域住民、保護者とともに、目指す子ども像と地域の教育力について熟議を重ねてきました。学校運営方針の「思いやりの心」の育成に向け、PTA や学校支援ボランティア、加えて地域コーディネーターなど、学校と地域の連携により、体験活動の充実を図っています。

この中で、「カルタ・もちつき大会」は、共栄小学校区子どもたちを育てる会の協力で、子どもたちが地域の方々とのふれあいや、異学年との関わりを通して、思いやりの心を育む体験を行っています。

CS 関係者の声

学校では思いやりの心を持つ子どもの育成に向け、教育活動を進めているので、地域としても多くの方々にと子どもふれあい、大人から思いやりの心を与えられるようコーディネートしています。

多くの方々が、子どもたちと関わってもらえるよう、お便りを配付するなどして、地域の方々との交流を深めています。



共栄小学校地域コーディネーター
森生 明美さん 長多 世子さん



共栄中学校 【生徒数 326名（平成28年5月現在）／指定日 平成29年3月31日】

目指す子供像：地域のなかで学び、つながり、主体的に行動できる子ども

地域と“共”に“栄”える学校に

～地域のなかで学び、つながり、主体的に行動できる子どもの育成～



地域防災訓練で多くの保護者が非常食づくりに参加

共栄中学校は、平成27年4月からコミュニティ・スクール調査研究校として取組を進め、新たな事業を取り入れるのではなく、これまで推進してきた家庭・地域との連携事業に焦点を当て、「ボランティア活動」「小中連携による活動」「地域との連携による活動」を重点的に進めています。これらの取組の原動力は「人と人とのつながり」です。文字通り「共栄」とは、「二つ以上のものが一緒に発展し、栄えること」つまりは、「共存共栄」であり、コミュニティ・スクールの導入により、これまでの学校と家庭・地域の連携が一層深まり、目指す子供像の実現につながるものと期待しています。

CS 関係者の声

当協議会は、目指す子供像の実現に向け、熟議と協働を重ねて学校運営に少しでも役立てようと活動しています。

以前あった共栄中学校区の小学校との連携組織を復活させ、学校運営やPTA 活動の連携、地域との連携などの情報を共有し、お互いに負担にならず効率的で、かつ効果的な活動を目指しています。



共栄中学校
コミュニティ・スクール協議会
会長 田中 俊司 さん